

平成 29 年度 学校評価 (自己評価結果)

本年度の重点目標	1 学習指導の充実・発展及び環境の改善 2 生徒指導の充実 3 キャリア教育の充実 4 魅力ある教育活動の展開 5 学習環境の改善		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
1 学習指導の充実・発展及び環境の改善 (教務部)	①学校設定教科「基礎教養」の充実 ②授業規律の維持 ③授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の精選と教科担当の専門性を担保 (教養数学の授業は数学科で担当) することにより、より一層の学習効果を図る。 ・授業態度報告書の活用、授業遅刻や中抜け生徒への入室許可証の発行により、授業に真摯に取り組む姿勢の醸成を図る。 ・授業参観報告書の提出、アクティブラーニングの研修・実践等によって自分の授業を見直し、授業改善を図る手がかかりとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の内容の学び直しから、就職試験用の実践問題まで、幅広く学習することにより、基礎学力の向上に努めた。 ・授業態度報告書の提出については、1年0件、2年7件、3年3件と前年度と比較して減少傾向にある。安易な授業遅刻や中抜けについても以前と比べかなり減少した。 ・授業参観週間、オープンスクールでの授業公開、アクティブラーニングの手法を用いた研究授業などを通じ、授業改善に努めた。
2 生徒指導の充実 (生徒指導部)	①基本的な生活習慣の確立 ②規律ある生徒集団の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・服装規定に基づいた制服の着用と正しい身だしなみの定着を図るための指導を強化、推進する。 ・組織的な校門立ち番指導と遅刻生徒に対する指導の徹底に努めるとともに、遅刻をさせない指導に取り組む。 ・挨拶の励行に努め、礼儀やマナーを重んじる姿勢を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ強化週間を設定した。指導件数は増えているが積極的な指導の結果ととらえている。あらゆる場面で、日頃から整えさせる指導が必要である。 ・各所での立ち番指導により、間際の遅刻は減少している。しかし、遅刻総数は昨年度並みである。常習者だけでなく、「時間」を守る意識をさらに高めていきたい。 ・交通マナーやSNS利用をはじめ規範意識の低下によるトラブルがなくなる。挨拶や駐輪マナー、昇降口の整頓等で良くなっている部分は肯定的に認め周知していきたい。
3 キャリア教育の充実 (進路指導部)	①進路実現に向けた個別指導の充実 ②学年団、保護者との連携を密にすることによるスムーズな進路実現	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者へは、社会情勢や採用状況等の情報提供を行い、早い段階での内定獲得を目指す。女子生徒への対応をきめ細かく行う。 ・進学希望者へは、業後の補習授業の検討を行い、進路目的に合わせた学習指導等を行い、進路実現に向けて実力アップを図る。 ・事業所や大学等の情報を収集し、学年団、保護者、生徒へ進路に関する情報提供をいち早く行い、早期の進路実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所訪問を行い、採用状況や社会情勢等の情報提供を就職希望者に行い、早い段階での内定獲得を目指した。女子生徒への対応もきめ細かく行い、進路指導部を通しての就職希望者は、年内に全員内定を得ることができた。 ・本年度の3年生は、一部、進路研究部の活動ともリンクし、昨年に劣らない進路実績をあげることができた。しかし、2年生では、各教科・学科の協力を得て、3学期から、希望者に対する授業後の補習授業を立ち上げることができた。進路目的に合わせた講座を設定し、実力アップを図る講座を実施することができた。今後も、実施経計画に修正を加えながら、継続して実施していきたい。 ・事業所や大学等の情報を収集し、「進路速報」等を保護者、生徒へ配布すると同時に、HPに最新の進路情報をアップすることで、進路に関する情報提供をいち早く行い、進路意識を高め、早期の進路実現を図る手立てを打つことができた。

<p>4 魅力ある教育活動の展開 (1) 生徒会指導 (生徒会部)</p>	<p>①部活動の活性化 ②生徒会活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への積極的な参加を促し、多くの1年生が部活動に定着できるように指導する。 ・外部講師の活用など、技術向上を目指すことができる環境を整える。 ・自主的な生徒会活動ができるように委員会活動の指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生における、部活動の定着率は81%と概ね良好であったが、2年生は44%であった。学年が進むと率が下がる傾向にあるので、このまま維持できるよう努めていきたい。 ・野球部、詩舞道部で外部講師をお願いし活動が活性化した。特に詩舞道部は、来年度の全国大会出場を決め熱心に活動に励んでいる。 ・生徒会執行部会が行われたが、その他委員会活動については、定期的に開催を行うことができなかった。今後改善し、生徒が自主的な活動ができる環境を整えたい。
<p>5 魅力ある教育活動の展開 (2) 専門教育指導 (農場部)</p>	<p>①生徒が生きる農業クラブ活動 ②資格取得指導の充実 ③安全に配慮した実験・実習の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大会運営や競技会で、生徒が積極的に動けるよう働きかける。 ・資格取得を積極的に進め、指導体制を強化する。 ・起こりうる危険を説明した上で実習を行い、生徒自身が安全に留意した実習に取り組めるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の県大会は測量競技会と年次大会を担当した。大会準備に当たり、看板や資料等の作成に積極的に取り組むことができた。 ・日本農業技術検定では少数ながら勉強会を開き、1年生でも合格者を多数出すことができたが、検定に興味を持つ生徒をもっと増やしたい。 ・生徒の予想もしない一瞬の行動をおさえることができず、指を縫う事故が起ってしまった。全校生徒に安全な実習についての話をしたが、もっと意識を高めたい。
<p>6 学習環境の改善 (保健部)</p>	<p>①学べる環境作りを自らの手で 行う ②健康増進に向けての広報活動の充実 ③個別の支援を必要とするような生徒への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美化週間等を通じて環境美化への意識向上を図る。 ・健康管理への意識を高める取り組みとして、広報活動を展開する。また引き続き、治療の受診督促を勧める。 ・支援の必要な生徒等への早期対応を図るために、広く情報を集めると共に、関係職員による情報共有を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化週間で巡回した生徒の報告では、清掃状況は良好である。ただ全員の生徒がしっかり取り組んでいる、とは言えない状況もあるので、来年度は改善を図りたい。 ・保健委員を中心に保健だよりの定期発行が行えた。受診督促については来年度も積極的に進めたい。 ・学年主任会で生徒情報の共有化がいつそう進めることができた。対応が必要な生徒についての周知を図る体制づくりが次年度の課題である。また健康観察表の有効利用を進めたい。
<p>総合評価</p>	<p>1 学習指導 前年度に比べ、授業態度報告書の提出が減少し、授業遅刻や中抜けについても減少した。落ち着いた学習環境が整いつつある。</p> <p>2 生徒指導 昨年度の身だしなみカードの導入に加え、今年度は身だしなみ強化週間を設定したことにより、生徒の身だしなみは改善されてきた。遅刻数については、立番指導の改善を行ったが、遅刻者が減らない。原因を追究し遅刻者の減少に努めたい。SNS利用のトラブルが増加している。規範意識を高めるために、方策を探っていきたい。</p> <p>3 キャリア教育 補習授業の立ち上げを行い、組織的に進学指導を行うことができるようになった。3年生については、今年度も国公立大学、公務員試験の合格者を出すことができた。</p> <p>4 生徒会 部活動は専門的に指導できる指導者が増加したことで、活発化してきたが、さらに活性化しよう方策を検討し続けたい。生徒会活動については委員会活動の活性化が課題である。</p> <p>5 専門教育 今年度は2つの大会の運営を担当したが、積極的に取り組むことができた。残念ながら、実習中の事故が起ってしまった。安全な実習が行えるように意識を高めていく必要がある。</p> <p>6 学習環境 清掃の取組状況は改善されてきている。また、昨年度から始めた学年主任会では、生徒情報の共有化を一層図ることができた。</p>		

平成30年度学校評価(重点目標)

本年度の重点目標	1 学習指導の充実・発展及び環境の改善 2 生徒指導の充実 3 キャリア教育の充実 4 教職員の協力体制の確立と多忙化解消 5 防災意識の高揚		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
1 学習指導の充実・発展及び環境の改善 (教務部)	①学校設定教科「基礎教養」の充実 ②授業規律の維持 ③授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の精選、及び理解できるまで繰り返し学習させることにより、より一層の学習効果を図る。 ・授業態度報告書の活用、授業遅刻や中抜け生徒への入室許可証の発行により、授業に真摯に取り組む姿勢の醸成を図る。 ・授業参観報告書の提出、法定研修者の研究授業を通じ、各教員の授業法を見直し、改善を図る手がかりとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年と教務部と連携を図り、各学年毎の状況に合わせ、進度と学習内容、学習方法を検討する。 ・授業態度報告書や授業遅刻入室許可証の活用により、問題の発生件数の減少に努める。 ・教員間での授業参観、稲高オープンスクールでの公開授業、各種研修を通じ、自ら学び続ける教員を育てる環境を整える。
2 生徒指導の充実 (生徒指導部)	①基本的な生活習慣の確立 ②規律ある落ち着いた生徒集団の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・服装規定に基づいた制服の着用と正しい身だしなみの定着を図るための指導を強化、推進する。 ・組織的な校門立ち番指導と遅刻生徒に対する指導の徹底に努めるとともに、遅刻をさせない指導に取り組む。 ・挨拶の励行に努め、礼儀やマナーを重んじる姿勢を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい身だしなみの定着に向けて、身だしなみカードを活用した日常的な指導の強化・推進に学校全体で取り組む。 ・「時間を守る」指導を徹底し、遅刻者の減少を図る。 ・帰属意識、自己有用感の高揚を図り、全校集会や行事、式典に臨む姿勢を身に付けさせる。 ・自己指導力の育成に努め、ルールやマナーを守り、落ち着いた学習環境の充実を図る。
3 キャリア教育の充実 (進路指導部)	①進路実現に向けた個別指導の充実 ②学年団、保護者との連携を密にすることによるスムーズな進路実現	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者へは、社会情勢や採用状況等の情報提供を行い、早い段階での内定獲得を目指す。女子生徒への対応をきめ細かく行う。 ・進学希望者へは、業後の補習授業を行い、進路目的に合わせた学習指導等により、進路実現に向けて実力アップを図る。 ・事業所や大学等の情報を収集し、学年団、保護者、生徒へ進路に関する情報提供をいち早く行い、早期の進路実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や大学等の状況を把握し、的確な情報提供を行う。また、求められる人物求められる能力を把握し、希望する進路に合わせて生徒個々の資質の向上を図る。 ・中長期的なインターンシップの検討。 ・増加している就職希望の女子生徒の就職先の確保に努める。 ・大学生の採用試験日程の変更や社会情勢の変化による高校生の採用計画への影響を検討し、事業所から情報収集を行い、生徒の適性に合った事業所への早期進路実現を図る。 ・授業後の補習授業を実施する。 ・学年団との連携を密にし、進路情報の共有化を図る。
4 魅力ある教育活動の展開 (1) 生徒会指導 (生徒会部)	①部活動の活性化 ②生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への積極的な参加を促し、多くの1年生が部活動に定着できるように指導する。 ・活動状況を外部に発信し、各部活が応援、協力し合える環境を整える。 ・各種行事において、自主的な生徒会活動ができるように指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動活性化の成果がみえるように、踏み込んだ指導をする。 ・部活動白板、稲高ニュース等を活用し、活動状況を外部に発信する。 ・体育祭、稲高祭の企画・運営について積極的に委員会を開催する。また、諸活動での生徒会執行部への協力体制を整える。

<p>5 魅力ある教育活動の展開 (2) 専門教育指導 (農場部)</p>	<p>①県連農業クラブ事務局の円滑な運営 ②資格取得の推進と取得資格の管理の徹底 ③GAP教育の意識向上</p>	<p>・事務局として各校の県連行事を把握し、大会運営が円滑に行われるよう努める。 ・各科と協力して計画的に資格取得を進め、資格の管理・保存を徹底する。 ・安全な作業場所の整理整頓を中心に取り組む。</p>	<p>・生徒が中心となって会議を進める。各校との意見交換も積極的に行う。 ・資格の管理を徹底するとともに、資格取得を生徒自信が把握出来るよう指導を行う。 ・作業場所の整理整頓、安全な作物作り等、出来ることから進めて行く。</p>
<p>6 学習環境の改善 (保健部)</p>	<p>①学べる環境作りと広報活動の充実 ②歯科保健及び精神健康度の充実を図る ③個別の支援を必要とするような生徒への対応</p>	<p>・美化週間等を通じて環境美化への意識向上を図る。考査最終日にも清掃を行い、美化に努める。 ・歯科受診勧告の回収率の向上を図り、また朝食をしっかりとるように広報につとめる。 ・カウンセラーとの連絡を密にし、また健康調査を通じて早期に生徒情報の収集を進め、教員間での共有と対応を図る。 ・生徒情報をもとに個別支援計画の必要の有無を検討し、必要の場合には時をおかず支援計画を実行できるような体制を整える。</p>	<p>・生徒自身が健康意識や美化意識を持つように働きかける。朝食や歯の健康など日常生活の改善について粘り強く指導する。美化週間の報告を生徒にまで伝え美化意識を涵養する。 ・保健だよりを通じて生徒・保護者に健康情報を伝える。 ・情報の共有化にとどまらずに生徒支援のための役割分担を明確にする。学年団との連絡を密にして問題を抱える生徒への早期対応を図る。個々の生徒への最適な対応についてスクールカウンセラーとの協力で展開していく。</p>
<p>学校関係者評価を実施する主な評価観点</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「基礎教養」と授業改善の充実について ・基本的な生活習慣の確立と規律ある生徒集団の育成について ・部活動の活性化について ・自主的な生徒会活動について ・進路実現に向けた個別指導の充実について ・快適な学習環境づくりと健康意識の育成について ・個別の支援計画について ・農業クラブ活動の充実について ・検定の指導体制の充実について ・安全に配慮した実験実習の展開について 	